

☆年間第2主日(1月15日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (イザヤの預言 49章 3, 5-6節)

主はわたしに言われた
あなたはわたしの僕、イスラエル
あなたによってわたしの輝きは現れる、と。
主の御目にわたしは重んじられている。
わたしの神こそ、わたしの力。今や、主は言われる。
ヤコブを御もとに立ち帰らせ
イスラエルを集めるために
母の胎にあったわたしを
御自分の僕として形づくられた主は
こう言われる。
わたしはあなたを僕として
ヤコブの諸部族を立ち上がらせ
イスラエルの残りの者を連れ帰らせる。
だがそれにもまして
わたしはあなたを国々の光とし
わたしの救いを地の果てまで、もたらす者とする。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 1章1-3節)

神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、
兄弟ソステネから、コリントにある神の教会へ、すなわち、至るところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。
イエス・キリストは、この人たちとわたしたちの主であります。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

福音朗読（ヨハネによる福音書 1章 29-34節）

そのとき、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。『わたしの後から一人の人が来られる。その方はわたしにまさる。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方のことである。わたしはこの方を知らなかった。しかし、この方がイスラエルに現れるために、わたしは、水で洗礼を授けに来た。」そしてヨハネは証した。「わたしは、“霊”が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを見た。わたしはこの方を知らなかった。しかし、水で洗礼を授けるためにわたしをお遣わしになった方が、『“霊”が降って、ある人にとどまるのを見た。その人が、聖霊によって洗礼を授ける人である』とわたしに言われた。わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証したのである。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

少し寒さが和らぎましたね。でもこれからが寒い冬の本番ですから、寒さに負けない体力をつけてこの冬を乗り越えましょう。

今週の18日から25日までの一週間、「キリスト教一致祈禱週間」です。聖パウロの回心の記念日までです。様々な要因により、キリストを信じる人たちが分かれている現状を見て多くのキリスト者が苦しんでいます。今は過去の諸要因を反省しながら、主イエス・キリストを救い主として信じる信仰の原点に立ち戻るときなのです。分かれていること自体が悲しい出来事なのです。一致のために祈り行動することが求められています。来週の日曜日の午後、西新井の教会で合同祈禱集会があります。多くの方のご参加をお待ちしています。

第一朗読（イザヤの預言 49章 3, 5-6節）

主の民と言われたイスラエルは、主への不忠実のために様々な困難に陥りますが、主は救いの約束をなさいます。「私の神こそ私の力」と主により頼む

生き方をするように語り掛けられるのです。これはイスラエルに対するだけでなく、広く人類に対する主なる神の願いでもあります。父なる神とは我が子を愛しむ神なのです。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 1章1-3節）

コリントの教会の信徒にあてた手紙の冒頭ですが、「いたるところで主イエス・キリストを呼び求めている人々へ」と、当時の教会の発展が表現されています。そしてイエス・キリストは、この人たちと私たちの主であります」と述べて、喜びを表しています。キリスト・イエスによって呼び集められた人々は多くいるのです。様々な地域、国、文化、人種の人々がイエス・キリストを救い主として集まってきているのです。パウロは知イエスに出会ってユダヤ教から改宗した使徒でした。ペトロは漁師であった自分を呼んでくださったイエス・キリストの弟子として当時の教会の使徒でした。ほかにも様々な人々が自分の過去から決別してイエス・キリストを信じる教会に入ってきたのです。このことに対するパウロの喜びの言葉です。主イエス・キリストの父なる神はすべての人の父として、すべての人を神の国に迎えたいと望んでおられます。

福音朗読（ヨハネによる福音書 1章 29-34節）

洗礼者ヨハネがイエスと出会った当時の様子を語っています。ヨハネがイエスに洗礼を授けたとき、霊が鳩のように天から下って、イエスの上にとどまるのを見たヨハネは語り、それゆえ自分はこの方こそ来るべき方だと証言すると述べています。実際に事の次第に遭遇し目で見て確認した洗礼者ヨハネは、その後はイエスと語り合うこともなく、自分の役目を理解し、殉教を遂げていきます。潔い引き際を見せています。私たちは何をもってイエス・キリストを救い主として信じているのでしょうか。よく考えてみると謎です。聖書を紐解いてそこに自分の心を満たす真理を見出したからでしょうか。キリスト信者の素晴らしい働きに心を惹かれてイエスを信じるようになったのでしょうか。どれも正解だと思いますが、実は皆、イエス・キリストからの招きの恵みによるものなのです。イエスが私の心を招いてくださったのです。大事なことは私がこの招きに応えていくことなのです。



荒川江北橋付近の高速道路橋（2022.12）

P.S.

12月から月一回の「オラトリオ足立」の集い(第二土曜日 13時から16時)を始めました。集いと言っても、教会の集会室と幼稚園の園庭を開放するだけのことですが、この会によって教会を地域の皆さんに知っていただき、教会は様々なことにも使い奉仕することと知っていただければと思います。孤立してしまいがちな昨今の社会ですが、居場所のあるところとして知っていただきたいのです。小さなお子さんからお年の方まで誰でも歓迎です。また一緒にお手伝いしていただける方がおられましたら大歓迎です。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光